

I 指導事例

小学校国語

平成21年度

平成22年度

課題1 場面の移り変わりや情景の想像

県の通過率 45.2% ⇨ 79.1%

問題 三 3

平成19～21年度の「基礎・基本」定着状況調査の結果をみると、場面の移り変わりや情景を、叙述に即して想像しながら読む力の定着が不十分であることが分かる。

これまでの誤答の状況から、設問部分の直前や直後の文だけを読んで、情景や登場人物の気持ちを想像する傾向があることが明らかとなった。

平成22年度は通過率が上昇した。

<経年比較>

年度	通過率 (%)
平成22年度	79.1
平成21年度	45.2
平成20年度	44.2
平成19年度	47.7

平成22年度の誤答と無解答の割合 (%)	
誤答	割合
(例) イワナがつれたから。 魚がつれたから。	5.2
(例) うれしかったから。	3.5
上記以外の解答 (例) トモにほめられたから。	10.4
無解答	1.9

書きましよう。

どうしてうれしかったのでしょうか。

の中に

それほど、この一ぴきはうれしかった。とありますが、

阿部夏丸 「オオサンショウウオの夏」による。

※ 資料編 P22, 23 参照

次の文章を読んで、あとの問いに答えましよう。

出来事と人物の気持ちの変化の関係をとらえることができていない。【19.1%】

昨年度の報告書で示した指導改善のポイント

○ 物語全体のおおまかな展開をとらえさせた上で、登場人物の性格、行動、会話、他の人物との関係や情景描写等、根拠となる表現を基に、気持ちを想像させましよう。

次に、「どのように登場人物の気持ちをとらえたか」について、自分の考えと根拠となる表現の両方を書かせ、考えと根拠のつながりについて、友だちと交流させる場を設定ましよう。

<事例紹介> 三次市立三和小学校

ポイント

- 自分の考えと手掛かりとした言葉の関係をとらえさせるために、表にまとめさせる。
- 考えを深めさせるために、読書感想文の記述前に、表の内容を友達と交流させる。
- 考えを深めさせるために、表にまとめたことを使って読書感想文を書かせる。

第5学年

教材：「ちかい」 ジェラティ

【学習の流れ】 登場人物の気持ちの変化を表にまとめ、その表の内容を生かして読書感想文を書く。

① 登場人物の気持ちの変化について、自分の考えと根拠となる表現（出来事、登場人物の行動や会話）を表にまとめさせる。

② 表にまとめた登場人物の気持ちの変化について友達と交流させ、自分なりの感想を加えさせながら、読書感想文を書かせる。

時間	場所	登場人物	できごと・人物の行動や会話
午後	暑い	おくぞく	遠くの方から、悲しそうな鳥さき
暑い	おくぞく	マリーナ	おじいちゃんとはぐれてしまっ
暑い	おくぞく	マリーナ	心悲しそうな声を
暑い	おくぞく	マリーナ	とほぼって

気持ちの変化をまとめた表

た	エ	も	緒	た	だ	ウ	し	の
ヤ	と	か	と	け	と	が	ま	が
ミ	い	あ	い	い	思	食	せん	分
ナ	う	い	う	こ	ミ	べ	ら	か
だ	に	は	だ	と	は	れ	う	っ
け	っ	い	と	が	始	た	い	て
と	い	い	思	ヤ	め	ら	と	こ
お	く	命	た	ミ	ハ	い	思	の
じ	わ	も	ん	ナ	タ	け	な	子
い	し	動	だ	は	ー	な	り	の
ち	く	物	の	分	に	と	口	を
や	し	命	の	か	な	思	っ	な
ん	り	も	い	っ	ア	た	子	ら
が	マ	同	じ	ア	と	た	供	し
		じ	す	の	言	か	の	た
		す	ね	と	っ	ら	り	り

読書感想文

交流した上で

◆ 上記の事例以外にも、成果を上げている学校の取組として、次のような指導があります。

- 「読むこと」の授業に、「関連した本を読んで感想を述べ合う。」「お気に入りの本を紹介し合う。」等、実生活における読書の充実につながる言語活動を設定する。
- 並行読書（単元の学習と並行して関連した本を読ませること）を進め、読書量や本を選ぶ機会を増やす。

これらの他に、教科との関連を明らかにした読書活動の年間指導計画、推薦図書リスト、必読書リスト等を作成し、学校全体で読書活動の充実に取り組むことも大切です。



課題2 主語・述語の関係

県の通過率 51.8%

64.4%

問題 二 4

平成19～22年度の「基礎・基本」定着状況調査の結果をみると、主語と述語の関係をとらえることの定着が不十分であることが分かる。

これまでの誤答の状況から、「～を」を主語であるととらえる傾向があることが明らかになった。

<経年比較>

年度	通過率 (%)
平成22年度	64.4
平成21年度	51.8
平成20年度	48.2
平成19年度	21.2

平成22年度の主な誤答と無解答の割合 (%)

主な誤答	割合
ウ	26.4
エ	6.4
無解答	0.6

ア わたしは
イ 自分の
ウ 名前を
エ 黒板に
書きました。

次の文の **書きました** に対する主語はどれですか。
次のア～エの中から一つ選び、その記号を の中に
書きましよう。

動作の対象となる文節を主語としている。
【32.8%】

昨年度の報告書で示した指導改善のポイント

- 主語が動作をする人等を表す語であることや、述語とともに文をつくる語であることを、様々な例文を示しながら理解させましょう。
- 三領域(話す・聞く、書く、読む)の指導において、文章を正しく理解、表現させるために、教材の一文の主語をとらえさせたり、自分が書いた文の主語と述語のねじれを直させたりするなど、主語と述語の関係を繰り返し取り上げましょう。

<事例紹介> 福山市立神辺小学校

ポイント

「言葉のきまり」の学習の時間だけでなく、「読むこと」や「書くこと」の指導において、主語と述語の関係を繰り返して取り上げる。

「読むこと」

- 物語の中の人物の行動に注目させるために、動作の主体を考えさせたり、省略された主語を明らかにさせたりする。

<例> 第2学年 「お手紙」 アーノルド＝ローベル

かえるくんは、大いそぎで家へ帰りました。
えんぴつと紙を見つけました。紙に何か書きました。紙をふうとうに入れました。(中略)
ふたりとも、とてもしあわせな気持ちで、そこにすわっていました。
長いことまっていた。

【問いかけの例】

- 「見つけた」のはだれですか。
- 「書いた」のはだれですか。
- 「入れた」のはだれですか。
- 「長いことまっていた」のはだれですか。

「書くこと」

- 推敲の指導において、主語と述語がねじれた文を、正しく照応した文に書き直させる。

<例> 第2学年 次の文を、主語と述語が正しくつながるようになおしましょう。

ぼくのゆめは、プロやきゅうのせん手になりたい。

- ① 文を読み返させ、文の主語と述語がねじれていることに気付かせる。

- ② **ぼくのゆめは**、プロやきゅうのせん手に（ ）。 →<答>なることです

ぼくは、プロやきゅうのせん手に（ ）。 →<答>なりたい

- ◆ 上記の事例以外にも、成果を上げている学校の取組として、次のような指導があります。

- 様々な例文を取り上げ、主語の役割や主語と述語の関係についてとらえさせる。
- 低学年から、主語と述語の関係を示した掲示物を教室にはり、授業で活用する。
- 普段の発表やスピーチ・討論等の場面でも、主語を意識させる。

これらの他に、読むことの指導において、物語を演じさせることを通じて場面の様子をとらえさせる際、言動の主体を明らかにさせて主語や述語を確認させることも有効です。



課題3 段落相互の関係の把握

県の通過率 52.6%

⇨ 77.2%

問題 四 3

次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

宮崎 学「ワシ・タカの巣」による。

※ 資料編 P23 参照

3 次の の文は、なぜ、フクロウのなかまが樹洞を巣にするようになったのかについて、文章に書いてあることをまとめたものです。 と に入るもつともふさわしい言葉を、文章中からぬき出して書きましょう。

冷たい風や をさけることができ、さらに、
 巣の中にいても、フクロウは を知る
 ことができるから。

平成20・21年度の「基礎・基本」定着状況調査の結果を見ると、段落相互の関係を考え、文章の内容を正しくとらえる力の定着が不十分であることが分かる。
 これまでの誤答の状況から、段落の中心となる語や文をとらえていないことが明らかになった。
 平成22年度は、通過率が上昇した。

<経年比較>

年 度	通過率 (%)
平成22年度	77.2
平成21年度	52.6
平成20年度	65.1

平成22年度の誤答と無解答の割合 (%)	
誤答	割合
「きけん」のみ正答	9.7
「外のようす」のみ正答	5.7
上記以外の解答	4.1
無解答	3.4

各段落の中心となる語や段落相互の関係をとらえることができていない。【15.4%】

昨年度の報告書で示した指導改善のポイント

- 読む目的（何かを知るために読むのか、分からないことを調べるために読むのか、筆者の考え方を知り自分の考えをもつために読むのか等）を児童に十分に意識させた上で、段落の中心となる語や文をとらえさせましょう。
- 「段落の構成を図を用いて説明する」、「教材の文章全体の展開を真似て説明文を書く」等の、文章全体を繰り返し読む活動を仕組むことで、段落相互の関係を考えさせたり、要旨をとらえたりさせましょう。

<事例紹介> 三次市立神杉小学校

ポイント

文章全体を繰り返し読ませ、段落の要点や関係を表や図にまとめさせる。

第3学年

教材：「つな引きのお祭り」北村 皆雄

- 【学習の流れ】
- 紹介されたお祭りに注目し、「始め」の段落の役割を考える。
 - 「終わり」の段落が「中」の段落のどこを受けているのか、つながりを考える。
 - 自分の地域のお祭りについてまとめ、「中」の段落に第4の例として加えてみる。

「終わり」

日本の各地で、つな引きのお祭りが行われています。そこには、それぞれの地方の人たちの、いのりやねがいがかめられているのです。

「中」

場所	いつ	お祭りのやり方	こめられたねがいやいのり
秋田県 刈和野			
沖縄県 真栄里			
鳥取県 宝木			

「始め」

運動会があると、かならずといってよいほど、つな引きが行われます。では、…（中略）…今も、日本各地のお祭りでは、つな引きが行われています。

【板書やノート例】

① 「始め」の段落の役割について確認する。「始め」の段落では、これから何について説明するのか、概説的に述べていることに気付かせる。

② 「終わり」の段落が「中」の段落のどこを受けているのか考えさせる。「終わり」の段落の「いのりやねがいがかめられているのです」に注目させ、その部分が展開部のどこを受けて述べているのか、表にまとめながら考えさせる。

③ 自分の地域のお祭りには、どのようないのりやねがいがかめられているのか考えさせる。表の列を増やして書き加えさせる。つな引きのお祭りではない場合は、「終わり」の段落をどう変えればよいか考えさせることもできる。

広島県三次市神杉の〇〇神社では、地域の人たちがたわらをあみ、〇〇ごろにそのたわらを抱えるお祭りをします。…（中略）…というねがいがかめられているのです。

日本の各地で、いろいろなお祭りが行われています。そこには、それぞれの地方の人たちの、いのりやねがいがかめられているのです。

◆ 上記の事例以外にも、成果を上げている学校の取組として、次のような指導があります。

- 段落ごとの要点をまとめたカードをあらかじめ示し、それを使って段落構成図を作らせ、なぜそう考えたのか説明させる。
- 文章からある段落を抜き出しておき、その段落が文章の構成上どこへ入るのが適切か考えさせ、説明させる。
- 教材の文章全体の展開を真似させて説明文等を書かせ、友達と交流させる。

